

「みんなが一緒」をやめて周囲を巻き込む ー発達障害の理解と支援ー

令和5年度 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
第60回全国研究協議会 愛知大会
2023.8.3

愛知県医療療育総合センター中央病院 児童精神科
あいち発達障害者支援センター 副センター長
愛知県中央児童・障害者相談センター 児童専門監
吉川 徹

1

今日のお話

- 発達障害とは
- 支援の原理

2

いわゆる「発達障害」

- 自閉スペクトラム症 ASD
- 注意欠如・多動症 ADHD
- (限局性)学習症 (S) LD

他にもチック症、吃音症などが含まれる。

「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。
(発達障害者支援法による定義)

3

生まれつきの「脳」のタイプ

- ものの見方、感じ方、考え方について
の、生まれつきの偏り
- おそらく脳の中での情報処理が、多数
派の人たちと異なっている

4

自閉スペクトラム症の症状とその根っ子

- 常同的・反復的行動
 - 「好きなもの」が増えにくい
 - 「嫌いなもの」が増えやすい
- 社会的コミュニケーションの障害
 - 「人づきあい」が動機になりにくい

5

テンプル・グランディン*に とっての「犬」の理解

- 彼女は犬がなぜ犬なのか、あるとき不思議に思ったという。犬といってもセントバーナード犬のように巨大な犬もいれば、チワワのように小型の犬もいる。毛の長いもの、毛の短いものの、ヘアレスドックまでいる。さらにシェパードのように鼻の長いものもあればシーザーのように鼻の短いものもいる。なぜこれらが犬という共通の言葉で言われるのか。彼女のとった戦略はすべての犬の写真を丹念に見ることだった。その結果、グランディンは犬に共通項があることを見いだしたという。それは犬の鼻の穴の形であった。そこはすべての犬に共通していたのである！

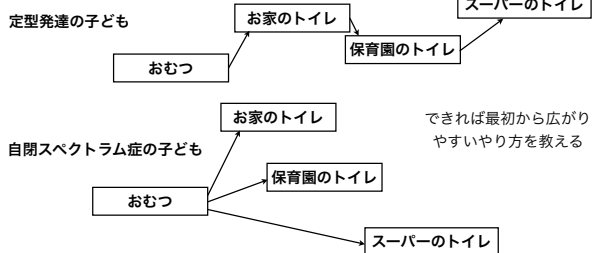
□ 杉山登志郎「発達障害の子どもたち」P87 より

*アメリカの動物行動学者。自閉症の診断を受け自伝の出版など、幅広く啓発活動を行っている。

6

「般化」の難しさ

- 一つの場所、一つの場面のできるようになったことが、他でもできるとはかぎらない。



7

「好きなもの」が増えにくい

- 理念形成の困難 (内海 2015*)

- 「これ、好きだな」
- 「こういうの、好きだな」

*内海健 自閉症スペクトラムの精神病理—基をつくる人たちのために— 医学書院 (2015)

8

自閉スペクトラム症の症状とその根っ子

- 常同的・反復的行動
 - 「好きなもの」が増えにくい
 - 「嫌いなもの」が増えやすい
- 社会的コミュニケーションの障害
 - 「人づきあい」が動機になりにくい

9

社会的認知の障害



社会的動機づけの障害

背景にあるのは近年の諸領域での報酬系への注目

10

自閉スペクトラム症の症状とその根っ子

- 常同的・反復的行動
 - 「好きなもの」が増えにくい
 - 「嫌いなもの」が増えやすい
- 社会的コミュニケーションの障害
 - 「人づきあい」が動機になりにくい

11

「嫌いなもの」が増えやすい

- (社会的) 報酬が不足した状態で行動を強制される体験を積み重ねるから？
- 記憶力がよいから？
 - 忘れるのが苦手
 - 好き、嫌いに関する記憶が薄れにくい
- 心的時間移動における特性 (内藤 2018*)

*内藤英知 記憶の発達と心的時間移動: 自閉スペクトラム症の未解決課題再考 『発達障害の精神病理』 廣和堂 (2018)

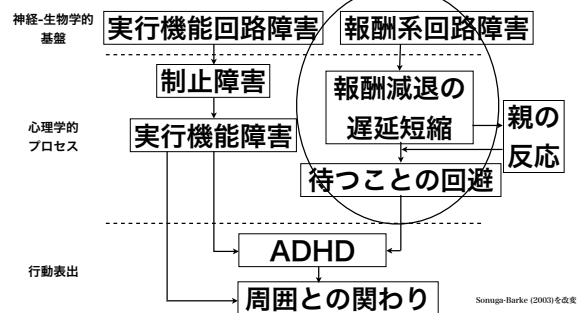
12

ADHDの根っ子

- 計画を立てて、立てた計画の通りに進めていくことが難しい
- 「将来」のご褒美が魅力的に感じられない

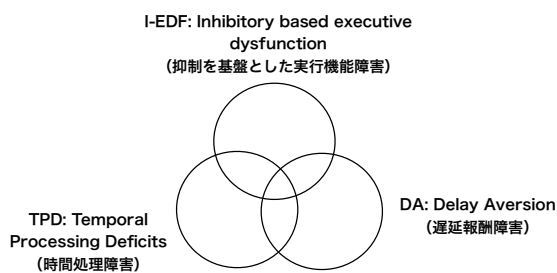
13

ADHDの基本的障害仮説



14

Triple Pathway Model



Sonuga-Barke et al. J Am Acad Child Adolesc Psychiatry, 49(4), 345-355

15

ADHDの時間感覚

- 遅延報酬障害
 - 過集中
- 実行機能障害
 - 課題をこなす時間の見通しが立ちにくい
- 時間処理の困難

16

見通しの立てにくさ

- 自分が30秒後に何をやっているか予測がつきにくい（実行機能障害）
- 遠い将来のご褒美は目標にならない（遅延報酬障害）
- 今やっていることがどれくらい時間がかかるか予測しにくい（時間処理障害）

17

「学習障害」

- 学習障害という用語は混乱している。
 - 各種の定義が混在している。
 - 文科省による定義
 - 医学による定義
 - 定義が歴史的に変化してきている。

18

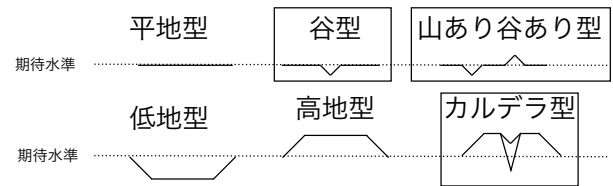
医学から見た学習障害

Specific Learning Disorder

- 限局性学習症
 - 読字の困難を伴うもの
 - 書字表出の困難を伴うもの
 - 算数の困難を伴うもの
- 言語障害

19

限局性学習症のイメージ



（限局性）学習症の定義

- ・本人の年齢、知能、受けてきた教育に比べて到達度が低いこと
- ・それが学業成績や日常生活を明らかに妨げていること

20

どの程度苦手なら 「限局性学習症」なのか

- 学業的技能は1つの連続体として分布するため、その人が限局性学習症をもつかもたないかを鑑別できる固有の境界点は存在しない
- その年齢における一般人口の平均値より
 - 1.5 標準偏差以下
 - 標準得点換算で78 以下
 - 7 パーセンタイル以下

21

限局性学習症の根っ子

- いろいろあるけれど……
 - 音韻処理の障害
 - 聴いた語音のまとまりを認識し、操作する能力
 - 「数」と「数字」の対応の困難

22

ちゃんと やちめう でしょ？

- こんにちは みさなん おんげき ですか？ わしたは げんき です。
- この ぶんしょう は いりぎす の ケブツリジ だ がいく の けゆきんう の けっか にんげ は もじ を にしんき する とき その さしいょ と さいご の もさじえ あいてつれば じばんゆん は めくちちゃ でも ちゃんと よめる という けゆきんう に もづいとて わざと もじの じんばゆん を いかれえて あまりす。
- どうです？ ちゃんと やちめう でしょ？

23

限局性学習症の子どもの動機

- できそうに見えて、できない。
- できるけど、燃費が悪い。

24

限局性学習症の子どもの 動機への支援

- 人前で恥をかかせない
- 燃費の悪さへの対処
 - 量を減らす
 - やりがいを演出する

25

「グレーゾーン」の発達障害

- 何がグレーなのか
 - 医療機関を受診すれば、診断がつく可能性が高いが、受診を待っている、ためらっている人
 - 医療機関を受診してたとしても、厳密な診断基準を満たさない人
 - 主に大人の場合など、横断面ではいかにも診断基準を満たしそうだが、十分な情報が得られないために確定診断ができない人

26

発達障害の「併存」

- 診断基準を満たす複数の発達障害等が存在する場合
- 1つの診断基準を満たす発達障害と「グレーゾーンの併存症」がある場合
- 1つ1つを見ればグレーゾーンの特性がたくさん重なっていて、一つも確定診断ができないけれど、困り方は大きい場合

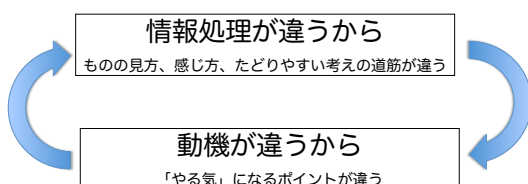
27

今日のお話

- 発達障害とは
- 支援の原理

28

発達障害をもつ子どもへの支援は なぜ難しいのか



29

情報処理への支援も大変だけれど

- 情報処理への支援は教科書に書いてある
 - よい方法はだいたい出尽くしている
- 本当に難しいのは動機への支援

30

動機の不足を補う危険な方法

- 動機の不足を補うためについ周囲の大人は危険な方法に飛びつきたくなる
 - 強制、罰
 - ルーティン（常同性）
 - （自ら課した）ルール、理念

このような方法の使いすぎが大きなこじれのリスクとなる

31

課題を分類する

難しさから分類する

- 一人で行える
- 手助けがあればできる
- できない

32

課題を分類する

やりがいから分類する

- やりたい
- 応援や褒美があればやりたい
- やりたくない

33

課題を分類する

疲労度からも分類する

- 楽々できる
- できるけど疲れる
- できない

34

「できること」より 「やりたくなること」を目指す

- 子ども時代に「できる」ようにすることは難しくない
- 力でのコントロール
- 罰でのコントロール
- ルーティンや理念でのコントロール
- でも「できる」けど嫌いになる…

35

何を目指すのか

- 歯磨きができる or 歯磨きがしたい
- 絵が描ける or 絵が描きたい
- 就労できる or 就労したい
- 自立できる or 自立したい
- 完成できる or 挑戦したい

36

「できたら褒めましょう」の落とし穴

- 大人が完成や達成、勝利に関心があると子どもが勘違いすると、こじれが生じやすくなる。
- 大人は「挑戦と失敗が大好き」である振りをすることが無難。
- 取りかかり始めたら応援する。
 - できたときの報酬は本人の達成感、満足感でわりと事足りる。

37

発達障害のある子どもの担任への「重荷」

- 子どもに「教えなければならない」
- 子どもの「やる気を支えなければならない」
- 子どもを手伝う、代行しなければならない
- 子どもの安全を守らなければならない

38

発達障害のある子どもに「教える」

- まねすることが苦手
- 注視の集中が持続しない
- 一部の領域の著しい苦手さ …… など
- 「いつのまにかおぼえること」が少ないし、「どうしても必要なこと」が身につかない

39

発達障害のある子どもの「やる気を支える」

- 発達障害の根っ子
 - 受け取れるご褒美の種類が少ない (ASD)
 - ご褒美の効き目がすぐに切れてしまう (ADHD)
 - 活動の燃費が著しく悪い (ASD、ADHD、sLD)

原理的に動機を補う支援が必要になる

40

ペアレント・トレーニング



読んで学べるADHDの
ペアレントトレーニング
— むずかしい子にやさしい子育て



ADHDをもつ子どものお母さんの学習室



むずかしい子を育てるコモンセンス・ペアレンティング・ワークブック

多くの効果を実証された療育技法には、ペアレント・トレーニングの要素が含まれている

もちろんティーチャー・トレーニングも……

41

発達障害のある子どもを「手伝う、代行する」

- 出来ないことを手伝う、代行する
 - 片付け、登校準備 ……
- コミュニケーションを代行する
 - 所持品確認、かわりに謝る ……

42

発達障害の子どもの 「安全を守る」

- 「これをしたら何が起こる」が、想像しにくい
- 何かに興味を持つと、他のことが目に入らなくなる
- 大事な情報が、「自動的に」入ってこない

大人の見守りが必要

43

人手の集め方

- 校内で人手を集める
 - 知恵を借りる
- 保護者を協力者にする
- クラスメートを協力者にする
- 本人を協力者にする

44

特別支援教育の推進について

3. 特別支援教育を行うための体制の整備及び必要な取組

(2) 実態把握

各学校においては、在籍する幼児児童生徒の実態の把握に努め、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の存在や状態を確かめること。

さらに、特別な支援が必要と考えられる幼児児童生徒については、特別支援教育コーディネーター等と検討を行った上で、保護者の理解を得ることができるよう慎重に説明を行い、学校や家庭で必要な支援や配慮について、保護者と連携して検討を進めること。その際、実態によっては、医療的な対応が有効な場合もあるので、保護者と十分に話し合うこと。

特別支援教育の推進について（通知） 2007.4.1 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07050101.htm

45

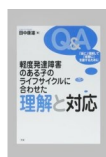
保護者への伝え方

- 保護者に伝えることは、特別支援開始の条件ではない。
- 内部での情報共有を先行させる

46

「仮に」理解して 「実際に」支援すること

- 支援の入り口はまず疑うこと
- 支援を始める時に診断はいらない
- 最初の理解は「仮」でよい
- 実際に支援を始めることが大切



軽度発達障害のある子のライフサイクルに合わせた理解と対応—
「仮に」理解して、「実際に」支援するために（田中康雄）

47

「仮の」理解

- 授業中落ち着きがない
 - 注意の持続時間が短いのではないか
 - 他からの刺激によって、すぐに頭がいっぱいになってしまうのではないか
 - 次にすべきことについての指示が、ききとれていないのではないか
- 授業の内容が難しすぎて理解できていないのではないか
- 机の上にもものが過ぎているのではないか

48

身近な人が「仮の」理解に たどりつかないと支援は始まらない

- 診断を受けても、その子が授業中に立ち歩く理由はわからない
- 身近な人に気が付かない限り、医者には伝わらない
- 誰かが気が付き、「仮に」理解するところから

49

最初の工夫

- 席の配置
- プリントの文字を大きくする
- 工作の手順を、プリントにして配る
- 課題
 - できる問題を混ぜていく
 - 解ける問題を8割、ちょっと頑張れば解ける問題を2割
- 授業が始まったら、机の上のものを片付ける
などなど

50

特別支援教育の推進について

7. 教育活動等を行う際の留意事項等

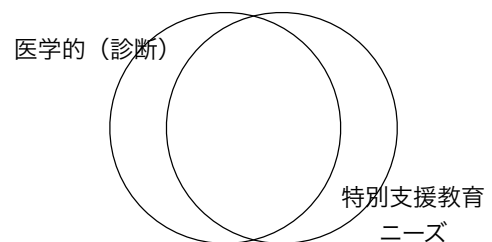
(1) 障害種別と指導上の留意事項

障害のある幼児児童生徒への支援に当たっては、障害種別の判断も重要であるが、当該幼児児童生徒が示す困難に、より重点を置いた対応を心がけること。また、医師等による障害の診断がなされている場合でも、教師はその障害の特徴や対応を固定的にとらえることのないよう注意するとともに、その幼児児童生徒のニーズに合わせた指導や支援を検討すること。

特別支援教育の推進について（通知） 2007.4.1 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07050101.htm

51

診断＝ニーズ？



52

「仮の」理解と支援の実績をもって 保護者との相談を始める

- 「発達障害があると思うので病院で見てもらってください」

- 「仮の」理解と、それに基づいて行った介入の結果を伝える

- その子どもの持つ特徴と、発達障害の子どもの持つ特徴に共通する部分があることを伝え、さらによく理解するために受診を勧める

53

子どもを巻き込む

- 大人は子どものモデル
 - 大人の理解が他の子どもに伝わる
 - まず関わり方のモデルを示すこと
 - 具体的な支援の方法を伝えること

その子どもと同級生の関わり方が変化する
動き始めれば子どもたちは自分でやり方を見つけていける

54

子どもへの説明

- 「〇〇君は「貸して」って上手に言えないんだ。だからボールを貸してほしいとき叩いちゃうんだよ。」
- 「今、「貸して」って言うの練習してるんだ。〇〇君が「貸して」って言えなくて困ってたら、先生に教えて。」
- 「「貸して」って上手に言えたら、ボールを渡してあげてね。あとで先生にも教えてね。」

55

子どもを巻き込む 一同級生一

- 大人は子どものモデル
 - 大人の理解が他の子どもに伝わる
 - まず関わり方のモデルを示すこと
 - 具体的な支援の方法を伝えること
- その子どもと同級生の関わり方が変化する
- 動き始めれば子どもたちは自分でやり方を見つけていける

56

子どもを巻き込む 一同級生一

- 質問はある日突然やってくる
 - 日頃から準備が必要
- 説明の原則は変わらない
 - 障害名を伝えることはより慎重に

57

子どもへの説明

- 「〇〇君は「貸して」って上手に言えないんだ。だからおもちゃを貸してほしいとき叩いちゃうんだよ。」
- 「今、「貸して」って言うの練習してるんだ。〇〇君が「貸して」って言えなくて困ってたら、先生に教えて。」
- 「「貸して」って上手に言えたら、おもちゃを貸してあげてね。あとで先生にも教えてね。」

58

障害児への通常の学級での支援

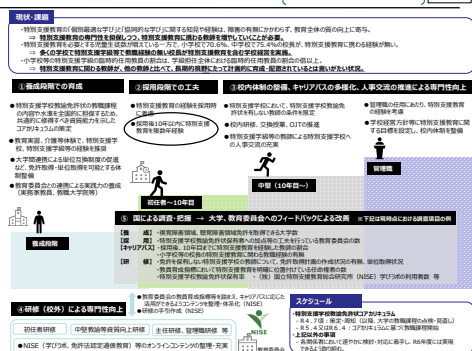
- 原則は特別支援学級と変わらない。
 - 違うのは他児の存在
- 本人への対応だけを変えても、上手にいかない
- ターゲットは他の子ども
 - 特別支援が特別ではないという価値観を、子どもに伝えること

59

「みんなが一緒」をやめる

- 「みんなが一緒」がよいことだ、当たり前だという価値観を打ち出すと、教師は苦しくなる
- できる課題が設定できない
- その子の「やる気」を引き出せない
- 子ども間の批判、干渉をコントロールできない

60



空気を作る

- 大半の子どもは「空気」が読める
- 大人の顔をうかがう
- 真似をする
- 先生が「みんな一緒」を喜んでいないということを、空気で示す

空気を作る

- 「みんなと違う子は支援学級」という空気を作ると、クラスの管理が難しくなる。
- 教師の意向を汲んだ子ども達が、排除を始めるから

「みんなが一緒」をやめる

- きちんと「特別扱い」をする
- じっとしているのが苦手な子どもは「黒板消し係」に任命する
- 書字の苦手な子どもには、デジカメで黒板の写真を撮ってもらう

これもありですか？



<http://www.youthfit.com/kinesthetic-classroom>



<http://www.districtadministration.com/article/new-twist-concentration-standing-while-you-work>

動いてもよい環境を作る

- じっとしているのが苦手なら
- ガムを噛む、ペン回し…
- 「黒板消し係」に任命する

「みんなが一緒」をやめる

- 選択肢を用意する。
- プリントには「復習問題」をつける。
 - 時間が余ったら復習問題
 - 先に復習問題をやってもいいよ

67

「みんなが一緒」をやめる

できる できるけど できない
疲れる

燃費の悪さを考慮しないと持ちこたえられない

- 課題の負担を軽減する？
- 十分な休息を確保する？

68

有給休暇システム

- 子どもには「有給休暇」がない！
- 不登校の慢性化を予防するために
 - 「月に2日までは休んでもいい」
 - 「もしもの日」©吉野朔実



69

ラーケーションとメンタルヘルスデイ

- ラーケーション
- 愛知県教育委員会が導入
- メンタルヘルスデイ
- アメリカの一部の州などで導入

「ラーケーションの日」(校外学習活動の日)の創設・導入に向けた取組経緯
2023年度より導入

愛知県内の公立学校(小・中学校、高等学校、特別支援学校)に通う子どもたちが、保護者等とともに、校外(家庭や地域)で、体験や探究の学び活動をし、自ら考え、企画し、実行することができる「ラーケーションの日」(校外学習活動の日)を設け、導入に向けた取組を進める。

- 「ラーケーションの日」(校外学習活動の日)は、校外での自主学習活動であることから、学校に登校しなくても欠席とならない。
- 保護者が、ラーケーションカードに記載された趣旨を踏まえて、子どもと相談し、当面、メール等で学校に届け出ることで、「ラーケーションの日」をとることができる。年3日まで(まとめてとることも可)。
- 保護者等の休日に合わせて「ラーケーションの日」(校外学習活動の日)を取得し、一緒に社会学習を楽しむ(保護者の休み方次第)。
- 「ラーケーションの日」をとったことで受けられなかった授業の内容は、家庭において、事前あるいは事後に教科書等を用いて自習する。

「ラーケーション (learcation)」とは
ラーニング (learning) (学習) とバケーション (vacation) (休暇) を組み合わせた造語

<https://www.womenshealthmag.com/jp/wellness/a3745087/some-us-states-have-passed-bills-allowing-kids-to-take-mental-health-days-off-from-school-20211009/>

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/432097.pdf>

70

子どもを巻き込む 一上級生一

- 発達障害の子どもは、年上の子どもの方
が、うまくつきあえることは多い
- ペースをあわせてもらえる
- はっきりとした役割を
 - フィードバックの機会を作ることを忘れずに
- 通学団、公園、児童館、学童保育、トワイライトスクールなど

71

特別支援教育の推進について

- 7. 教育活動等を行う際の留意事項等
- (4) 交流及び共同学習、障害者理解等

障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒との交流及び共同学習は、障害のある幼児児童生徒の社会性や豊かな人間性を育む上で重要な役割を担っており、また、障害のない幼児児童生徒が、障害のある幼児児童生徒とその教育に対する正しい理解と認識を深めるための機会である。

特別支援教育の推進について (通知) 2007.4.1 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07050101.htm

72

他の子どもの保護者を巻き込む

- やはり支援の方法とセットになった説明を
 - 今の取り組みの内容とその成果について説明できるようにしておく
- その子ども一人を特別扱いすることではないことを説明する
 - 一人一人の子どもの、得意なところ、不得意なところを理解し、それに対処していけることをアピールする
- 「○○君通信」の利用

73

本人への告知

- 原則として
 - 本人に伝えていないことは、周囲の人にも伝えない
 - 偶発的に診断名を知ることには、とても弊害が多い
- 計画的な告知を行うことが望ましい

74

自分を自分の支援者にする

- 知的な能力の高い発達障害の子どもは自分を自分の支援者に行うことができる
- 得意なこと、不得意なこと、それをカバーする工夫、に気付いてもらうこと
- こどもの力にあわせて伝えていく
 - このときも、「理解」と「支援」をセットで説明していく
 - 必ずしも障害名を伝える必要はない

75

自閉症・アスペルガー症候群 「自分のこと」のおしえ方—診断説明・告知マニュアル



- 吉田友子著
- 学習研究社

76

周囲を巻き込んでいくこと

- 支援の最終目標は、持ち運びのできる支援パッケージを作ること
 - 次のステップに伝えられる支援
 - 長くつきあえる仲間を作る支援
 - 地域の中に持っていける支援
- 支援は言葉にできるほうがいい
 - 「あうんの呼吸」のリスクは高い

77

通級の時間だけ……

- 「みんなとは違う」
 - 本当にそれで大丈夫なのか
- 交流級では「みんなと一緒に」？
- 通級にいない時間も、通級に行っていない子ども、交流級に来ている子どもも「みんなが一緒」をやめることが目標

78